

第 10 回 安全目標に関する検討委員会 資料に関する気づき点

2025/11/13

名古屋大学 山本章夫

1.安全目標と安全文化

- ・ 資料として価値がある形に情報を整理していただいたことに感謝いたします。
- ・ 本検討委員会の以前のアンケートでも安全目標と安全文化の関係について問題提起させていただいたかと思いますが、今回の議論を通じて議論や論点を整理しておくことは重要かと思います。
- ・ 安全目標と安全文化の二軸で考えた場合、
  - ①安全目標：あり、安全文化：育成されている
  - ②安全目標：あり、安全文化：育成されていない
  - ③安全目標：なし、安全文化：育成されている
  - ④安全目標：なし、安全文化：育成されていないという四つの状態が、安全の観点からどのように異なるのか、あるいは異なるのかを議論することも出来そうです。
- ・ 例えば、①と③、あるいは②と③では安全確保の質は異なるのか？どちらがすぐれていると言えるのか？など。個人的な感覚としては、安全文化が育成されているかどうか重要であり、安全目標の設定の有無は副次的な効果にとどまるように思われます。
- ・ むしろ、荻野さんの資料のように、安全目標の有無によって、安全文化の育成のしやすさは異なるのか？といった観点が重要かもしれません。個人的には、安全目標の設定により、安全確保の一部が可視化され、安全文化の育成につながるように感じています。
- ・ 逆に、安全目標が設定されることが安全文化にとって負の影響をもたらすことはないかという観点もあり得るかと思います。例えば、性能目標への適合性が重視され、安全性の確認が多角的に行われなくなることなど。1F 事故前の日本がそのような状況であったと言えるかもしれません。

2.費用便益分析

- ・ 様々な分野の情報を比較していただいております、ある程度の相場観をつかめる資料になっています。
- ・ 日本の小規模な事例について、具体的にケーススタディをすることで、難しい点、議論すべき点などが明らかになるように思われます。

以上